

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人 山添学園
施設名	みゆきっこ そら保育園
報告者（役職）	幸元 裕（施設長）
住所・連絡先	大阪府大阪市淀川区木川西 4-1-37
	☎ 06-4862-6955
	E-mail miyuki-sora@snow.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

様々な玩具を通して、“遊びこむ力”を養う

○主な助成備品

モザイク、プリズモコマ、ボールプール、楽器など

1. 保育計画策定の目的

以前助成いただいた姉妹園の〈みゆきっこつばめ保育園〉では、「思わず遊びたくなる保育環境を目指して」をテーマに、木製玩具や海外製の玩具を豊富に取り入れました。おかげさまで今では充実した保育を行わせていただいております。当保育園は、開園したばかりで、また、保育室面積が姉妹園よりも広く、当初は子ども達も走り回ってしまうなど、危険な姿がよく見られました。

そこで、助成いただいた玩具や楽器、室内遊具を設置することにより、コーナー遊びを充実させ、子ども達が集中して遊びこめるようにしていきたいと考えました。

2. 具体的な実施内容とその成果について

①【モザイクやプリズモコマ、ノズル付きパズルなど】

「摘まむ、入れる、引っ張る」の微細運動を養うため、指先を使う玩具を多く購入させていただきました。0,1歳児は、ノズル付きパズルを子ども達の手の届く棚に収納しています。そのため、自由遊びの際は、自主的に取り出し、遊んでいます。0歳児もノズルが付いているため、容易に掴め、手のひらにフィットし、握力向上に繋がります。また、日頃から手の届くところにあるため、取り組む回数が多く、遊び方の理解が早く、保育者も驚いています。

おかげで様々なパズルに取り組み、形の認識をしっかりとできるようになりました。年間を通して、グレードも上げることで、上達も早く、集中力が高まっています。

次に2歳児中心に写真Aと写真Bのようにモザイクやプリズモコマに取り組んでいます。

初めは難しく、保育者に手伝ってもらったり途中で遊びをやめてしまう姿も見られました。しかし、2歳児ならではの物づくりの意欲から、完成させたいという意識が芽生え、難しくても挑戦しようとする姿が増えてきました。保育者も子ども達個々の姿を尊重し、できるだけ一人ひとりが集中して取り組めるような環境作りを心掛けています。子ども達の完成した時の表情は忘れられません。これも助成金のおかげだと感謝しております。

写真A



写真B



②【ボールプールと運動遊び(平均台)など】

次に粗大運動にも力を入れるため、本格的なボールプールを取り入れました(写真C)。

以前まではビニールプールにボールを入れていましたが、今回のものは側面がしっかりとしたクッション性のある物で、底もウレタン製のマットです。0歳児にとって、つかまり立ちをする時期の子もおり、安全性の高い今回のボールプールは保育者からも積極的に使用するようになりました。また、500個ほどボールが付属しており、アミューズメント施設のようにダイナミックなボールプール遊びができるのも魅力の一つです。0歳児として、ボールの上に座ったり、立ったりすることは足腰を強化するにはとても最適な遊びです。

このボールプールを繰り返し遊びこんでいくことで、戸外への散歩にも良い影響が出てきました。月齢にもよりますが、子ども達の足腰が安定してきたことで、公園へ向かう道中も歩いていくことができる子ども達が増えてきたのです。また、転倒など怪我に繋がることも減ってきたため、顕著に成果が出ております。本当にありがとうございます。



写真C

次に1,2歳児では、運動遊びのため、平均台を取り入れています(写真D)。室内で平均台に多く取り組んだことで、1歳児では10月の運動会で戸外での平均台渡りができるようになりました。1歳児で、一人で渡りきることができたのもなかなか見られない光景だったので、とても驚いています。また、2歳児は月一回ある体育指導員による体育遊びに取り組んでおります。そこでも平均台を取り入れており、今では体幹がしっかりしてきたので、細いロープの上も歩けるようになりました。(写真E)

写真D



写真E



③【楽器遊び】

最後に音感を養うことに着目し、様々な楽器に触れられるように取り組んでいます。

人間の感覚の中でも早期に成長し完成するのが聴覚と言われています。その聴覚が本格的に発達し始めるのは、言葉を習得し話せるようになる2歳頃のようなようです。当園は乳児の保育園なので、この音感を養うことを重要視し、また様々なことが相乗効果として出てくると思い、積極的に取り組んでいます。

今回、購入させていただいたのは、鈴とタンバリン、カスタネット、ハンドベルです。また0歳児の低月齢児も取り組めるように持ちやすい卵型のマラカスを購入致しました。そして、0,1歳児を中心に年間を通して、研究目標のテーマを音楽にしていたクラスがほとんどでした。これも豊富な種類の楽器を揃えることができたおかげであり、保育者の研究意欲が高まりました。

取り組みとしては、子ども達の自然に出る反応を大切にしました。教え込むのではなく、楽器の使い方も最初は伝えず、子ども達が手に取り、どうすれば音が鳴るのかを観察しました。

そのため、初めの頃は卵型マラカスを手に取った0歳児が口に運び、食べようとしたほどです。それでも担任は、その姿を認めました。少しずつ音が鳴ることに気づき、自ら振ってみようという気持ちが出てきたのです。見ていてとてもおもしろく、微笑ましい瞬間でした。今では、保育者の歌に合わせて、体を左右に揺らしながら、子ども達それぞれの感性で上手に鳴らせるようになりました。

次に0,1歳児は、鈴とタンバリン、カスタネットに取り組みました。今回購入した楽器は、通常の楽器と違い、鈴はカエル型、タンバリンはペンギン型、カスタネットはパンダ型のものであります。乳児らしく、子ども達が興味を持てるように動物のものを探しました。また、0歳児が口でくわえたり、舐めても安全で消毒しやすいようプラスチック製のものにしました。

さて、実際の取り組みとしては、自分たちなりに鳴らし方をよく理解しており、習得するのがとても早かったです。これも、最初の興味が湧くような楽器を揃えるという着眼点があったのだと自負しています。当園では、12月のクリスマス会が音楽発表会と兼ねており、保護者の皆様の前で披露します。小さいうちから誰かに見られてすることを身につけておくことは大切です。幼児や児童へと成長してからも緊張することなく、堂々と人前で披露する精神力を養うようにと考えております。ただし、乳児らしい温かい雰囲気の中で音楽に慣れ浸しむこともねらいとして大切にしております。0,1歳児は保護者の方と一緒に楽器遊びを楽しみました。今回子ども達に無理強いせず、自然と楽しめる雰囲気を作ったことで、驚いたことに当日は子ども達自ら保護者から離れ、舞台正面に出てきて披露してくれました。その姿に保護者の皆様も成長を感じられました。

そして最後に、今回購入したハンドベルを保育者が子ども達に披露し、綺麗な音色を感じられるようにしました。また、保護者の皆様からも日頃の仕事の疲れが癒えましたと感想をいただくことができました。

本当に助成金あつての貴重な経験だと実感しております。

日頃の楽器遊び



クリスマス会当日



ハンドベル演奏



合奏披露



3. 今後の課題と展望

今後は、当法人で取り組んでいる埋橋玲子氏監修の保育環境評価スケールを元に、より良い環境づくりに力を注いでいきたいと思えます。人的環境の保育者と物的環境の玩具、家具、室内の雰囲気子ども達にとって人格形成に繋がっていく二大軸と考えております。その中でも今回購入した玩具は、どれも五感を養う重要なツールです。保育者一人ひとりが切磋琢磨して、保育力の向上に邁進し、与えられた玩具等を存分に保育に活かしていきたいと思えます。

この度は、助成いただき、本当にありがとうございました。

大切に使用させていただきます。

以上